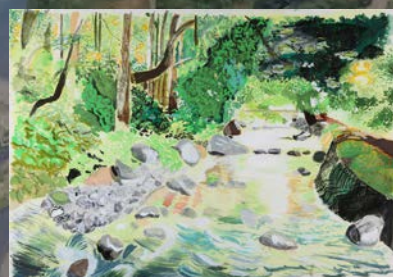


平成31年度 事業概要

千曲川・犀川



第34回 千曲川・犀川ふれあい絵画コンクール 金賞作品

地域との連携で「安全・安心」の川づくり

国土交通省 北陸地方整備局

千曲川河川事務所



写真:千曲川(84km付近)から上流を望む

千曲川流域の概要

日本で最も長い川として知られる信濃川は長野県内では千曲川と呼ばれています。その源は山梨(甲斐)・埼玉(武蔵)・長野(信濃)の三県にまたがる甲武信ヶ岳(標高2,475m)に始まり、長野市で犀川と合流し、新潟市までの367kmを流れます。犀川は松本市で奈良井川と合流するまでは梓川と呼ばれ、北アルプスの槍ヶ岳(標高3,180m)を源とし、千曲川と合流するまでの157kmを流れます。

千曲川流域の長野県に占める割合

長野県の面積13,562km²のうち、千曲川の流域面積は7,163km²であり、長野県の半分以上になります。また長野県の人口は約206万人ですが、そのうち7割以上の約150万人が千曲川流域で生活しています。

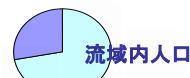
その他長野県は天竜川流域と木曾川流域等を有します。

●長野県全体面積の約53%(約7,163km²)



長野県全体13,562km²

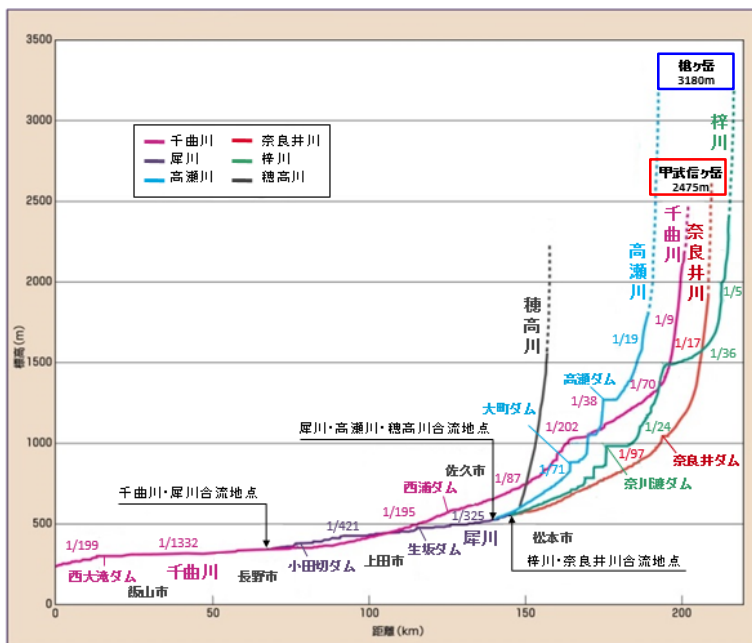
●長野県内人口の約71%(約150万人)



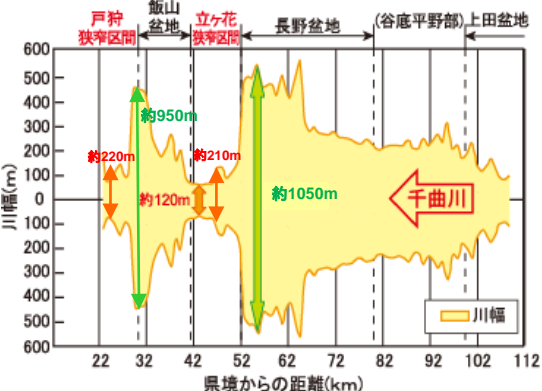
長野県全体約206万人
(平成31年2月現在、長野県HPより)



千曲川の河床勾配



千曲川の川幅



千曲川は、佐久、上田、長野、飯山の盆地と山あいの狭窄区間を交互に流れ下るため、川幅が大きく変化しています。

特に長野盆地下流の立ヶ花狭窄区間と飯山盆地下流の戸狩狭窄区間は、両岸に急斜面が迫る渓谷となっており、洪水時には水の流れが悪くなるため、狭窄区間上流の水位が上昇します。



戸狩狭窄部

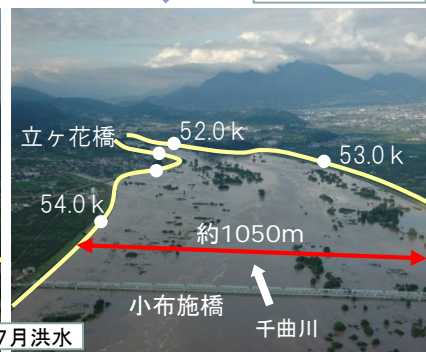


立ヶ花狭窄部



千曲川

平成18年7月洪水

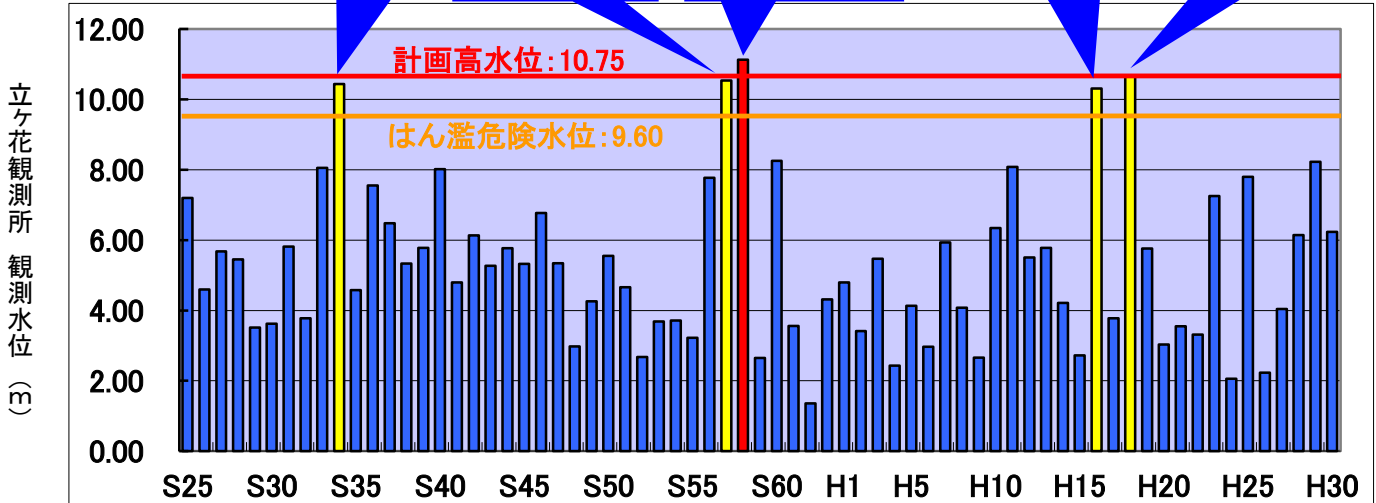


千曲川

過去の水害

千曲川河川事務所管内では、観測開始から5回の大水害があり、立ヶ花水位観測所における既往最高水位は昭和58年9月に観測した、11.13mとなっています。また、近年では、平成18年7月洪水に、史上第2位となる10.68mを記録しました。

第4位 10.44(S34) 第3位 10.54(S57) 第1位 11.13(S58) 第5位 10.32(H16) 第2位 10.68(H18)



昭和34年 (1959) 8月洪水

- 台風性の豪雨
 - 流域内の多くの箇所ですべて計画高水位を超過
- 被害家屋5,482戸 死者数65名 (長野県内)



昭和57年 (1982) 9月洪水

- 台風性の豪雨
 - 支川樽川で堤防決壊、他の支川では内水氾濫が発生
- 被害家屋5,265戸 死傷者37名 (長野県内)



昭和58年 (1983) 9月洪水

- 台風性の豪雨
 - 千曲川本川の飯山市戸狩、柏尾で堤防決壊
- 被害家屋11,118戸 死者9名 (長野県内)



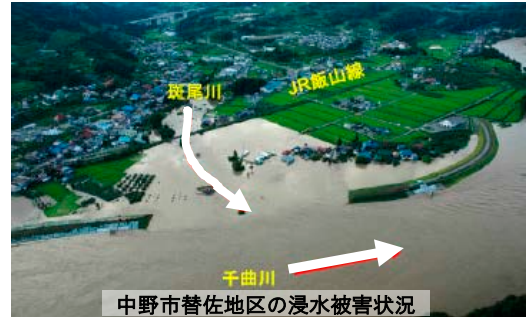
平成16年 (2004) 10月洪水

- 台風性の豪雨
- 被害家屋194戸 (長野県内)



平成18年 (2006) 7月洪水

- 梅雨前線による豪雨
- 被害家屋116戸 (長野県内)



洪水と治水事業の沿革

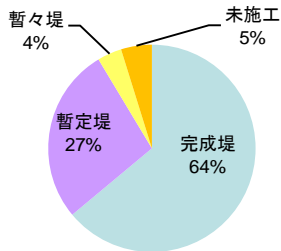
年次	内容
寛保2年(1742)8月	成の満水(千曲川史上最大の洪水)
大正7年(1918)~昭和16年	千曲川第1期改修工事
昭和24年(1949)	千曲川第2期改修工事開始
昭和34年(1959)8月	立ヶ花地点7,260m ³ /s(観測史上第2位)
昭和40年(1965)4月	信濃川水系工事実施基本計画策定(計画高水流量 立ヶ花地点7,500m ³ /s)
昭和44年(1969)8月	犀川筋の高瀬川流域で堤防決壊、浸水被害が発生
昭和49年(1974)4月	信濃川水系工事実施基本計画改定(計画高水流量 立ヶ花地点9,000m ³ /s)
昭和57年(1982)9月(台風)	立ヶ花地点6,754m ³ /s(観測史上第3位)千曲川支川樽川(飯山市)で破堤
昭和58年(1983)9月(台風)	立ヶ花地点7,440m ³ /s(観測史上第1位)千曲川本川の飯山市戸狩及び柏尾地先で破堤
昭和62年(1987)	千曲川・樽川河川激甚災害対策特別緊急事業による新堤完成
平成16年(2004)10月(台風)	立ヶ花地点5,662m ³ /s(観測史上第5位)堤防等整備途上の立ヶ花下流部で浸水被害が発生
平成18年(2006)7月(前線)	立ヶ花地点6,021m ³ /s(観測史上第4位)立ヶ花狭窄部上流で計画高水位を超過 立ヶ花下流部で浸水被害が発生。犀川生坂村小立野、安曇野市豊科で護岸が欠損し緊急復旧を実施
平成20年(2008)6月	信濃川水系河川整備基本方針策定(計画高水流量 立ヶ花地点9,000m ³ /s)
平成26年(2014)1月	信濃川水系河川整備計画策定(河川整備計画で目標とする流量 立ヶ花地点7,300m ³ /s)

千曲川・犀川の治水事業の進め方

治水の現状と課題

流下能力の向上、ダムによる流量調節

- ◇千曲川・犀川では、堤防必要区間に対する完成堤防の整備率が約6割と低い状況です。
- ◇昭和58年9月洪水、平成16年10月洪水、平成18年7月洪水では、立ヶ花及び戸狩狭窄部等の上流で計画高水位を超過して洪水が流下しました。また、狭窄部以外にも河川の断面が不足し、洪水を安全に流下させることができない区間があります。
- ◇平成18年7月洪水では、大町ダムと犀川上流の発電ダム群が特例的な連携操作（流量調節）を行った結果、洪水水位を低減し氾濫被害の防止等に効果を発揮しました。



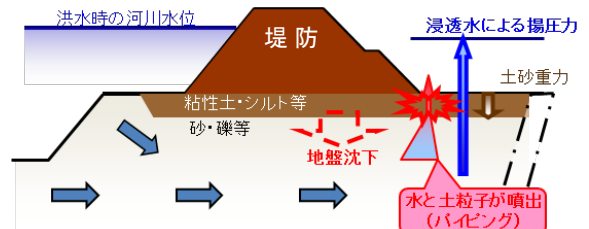
千曲川・犀川の堤防整備状況 (平成30年3月時点)

平成18年7月 狭窄部の洪水のせき上げ状況

完成堤：堤防高が計画高水位よりも高く、かつ堤防幅が計画以上の幅がある
 暫定堤：堤防高が計画高水位よりも低い、もしくは堤防幅が計画未満の幅である
 暫々堤：堤防高が計画高水位よりも低く、かつ堤防幅が計画未満の幅である

浸透に対する堤防等の安全性確保

- ◇狭窄部のせき上げにより高い水位が長く続くこと、旧河道等の地形的な特性が各所でみられることから堤防が整備されている区間においても、堤防やその下の地盤から漏水が発生しています。



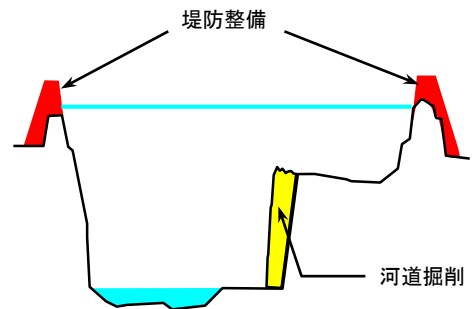
流水の強大なエネルギーに対する堤防等の安全性確保

- ◇河床勾配が急な区間では、洪水の流れが速く、洪水の強大なエネルギーによって護岸の基礎や高水敷が大きく侵食され、堤防の決壊に至る危険性があります。

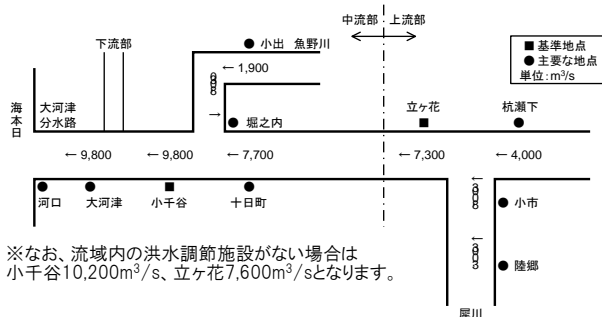


河川整備計画の目標

- ◇信濃川水系河川整備計画は今後概ね30年間の具体的な河川整備の目標や内容を示すものであり、関係住民や学識者、自治体などの意見聴取を経て平成26年1月に策定されました。
- ◇千曲川においては、観測史上最大の昭和58年9月洪水と同規模の洪水が発生しても、堤防の決壊、越水等による家屋の浸水被害の防止又は軽減を図ることを目標としています。
 今後は現在の河川整備状況、背後地の利用状況、上下流や本支川の整備バランス等を総合的に勘案し、段階的かつ着実な河川整備を実施します。



洪水の安全な流下対策のイメージ図



※なお、流域内の洪水調節施設がない場合は小千谷10,200m³/s、立ヶ花7,600m³/sとなります。

河川整備の目標(30年後) 流量配分図



昭和58年9月洪水の氾濫状況(飯山市)

既設ダムの有効活用

大町ダム等再編事業(実施計画調査)

- ◇高瀬ダム・七倉ダム（東京電力HD）の発電容量の一部、大町ダム（国土交通省）の水道容量の一部を活用することにより、新たに洪水調節容量を確保し、大町ダムからの放流量を大幅に抑えることで、高瀬川や犀川はもとより、千曲川本川にも十分に洪水調節効果を発揮できるよう必要な調査・検討を行います。
- ◇高瀬・七倉・大町ダムの有効活用を行うことで、信濃川水系河川整備計画で想定している洪水に対し、他の洪水調節を実施しているダムと合わせて、千曲川の立ヶ花基準点で約300m³/sの洪水調節効果を発揮することができます。
- ◇また、高瀬ダム、七倉ダムへの治水機能の追加にあわせて、長期的に、また安定的に治水機能や利水機能が発揮されるよう、発電事業者と共同でダムの土砂対策についても調査検討を行います。



河川環境の保全及び生物の生息・生育環境の保全

- ◇河川整備にあたっては、多自然川づくりを基本として河川環境の保全に努めるとともに、生物の生息・生育の場として機能している瀬・淵やワンド、河岸、河畔林等については、今後も動植物が生息できるよう保全に努めます。

土砂動態及び土砂の流下による河川環境の変化の把握

- ◇洪水や河川整備に伴う土砂動態や河川環境の変化に備え、定期横断測量や河川水辺の国勢調査等の定期的な調査により状況把握に努め、調査結果を分析した上で、維持管理も含めた土砂対策の検討を行い、関係機関と情報を共有し、必要に応じ連携して対策に取り組めます。

平成31年度の主要事業

■屋島地区堤防整備(長野市柳原・屋島・大豆島地区)

※「防災・減災・国土強靱化のための3か年緊急対策」
 ※「防災・減災・国土強靱化のための3か年緊急対策」

■福島地区堤防整備(須坂市福島・中島地区、長野市若穂・内・若穂牛島地区)

千曲川の村山橋～落合橋付近までの間は、堤防の高さと幅などの断面が不足し、浸透に対する安全度も不十分なことから、洪水を安全に流下させるため、「千曲川堤防強化対策プロジェクト」として堤防を強化します。

- 全体計画
 屋島築堤延長 約5.3km
 福島築堤延長 約4.5km
- 平成31年度事業の内容
 用地取得、樞門改築、築堤の実施



■篠ノ井地区河道掘削(長野市)

※「防災・減災・国土強靱化のための3か年緊急対策」
 千曲川の長野市篠ノ井地区は、洪水を安全に流下させるために必要な断面が不足していることから、河道掘削を実施します。

- 全体計画
 河道掘削 L=2.2km
- 平成31年度事業の内容
 河道掘削の実施 L=2.2km



■小立野地区堤防整備(生坂村)

犀川上流の右岸東筑摩郡生坂村小立野地区は、堤防の高さと幅が不足しており、洪水を安全に流下させるため、堤防を強化します。

- 全体計画
 築堤延長 約900m
- 平成31年度事業の内容
 築堤の実施



大町ダム等再編(実施計画調査)

※番号表示は災害復旧箇所を示す

■災害復旧事業

平成30年7月豪雨、同年10月の台風24号に伴う出水により既設護岸等が被災したことから、背後施設等への被害拡大防止のため護岸の復旧工事を実施します。



■木島地区堤防浸透対策(飯山市)

※「防災・減災・国土強靱化のための3か年緊急対策」
 千曲川の右岸飯山市木島地区は、過去の出水時に堤防基礎の漏水が発生していることから、鋼矢板による浸透対策を実施します。

- 全体計画
 浸透対策延長 約3Km
- 平成31年度事業の内容
 浸透対策を推進



■南条地区自然再生(坂城町)

坂城町南条地区の高水敷は本来の砂礫河原が外来種により樹林化しているため、高水敷を切り下げ砂礫河原を再生します。

- 全体計画
 河道掘削 20箇所
- 平成31年度事業の内容
 河道掘削の実施 1箇所



■国分地区堤防整備(上田市)

千曲川の右岸上田市国分地区は、堤防の高さと幅が不足しており、洪水を安全に流下させるため、堤防を強化します。

- 全体計画
 築堤延長 約330m
- 平成31年度事業の内容
 築堤・護岸の実施



千曲川河川事務所管理区間 (134.9km)
 千曲川 (87.5Km) : 飯山市湯滝橋下流(22k付近)
 ~上田市大屋橋上流(109k付近)
 犀川 (44.6Km) : 千曲川合流点~長野市南都橋(10k付近)
 生坂村日野橋(52k付近)
 ~松本市新瀬橋(86k付近)
 高瀬川 (1.1Km) : 犀川合流点~安曇野市安曇橋(1.1km区間)
 奈良井川 (1.7Km) : 犀川合流点~松本市島橋(1.7km区間)

河川の維持管理

適正な河道内樹木管理の必要性

平成30年7月豪雨等の近年の災害を踏まえ実施した重要インフラ緊急点検結果に基づき、緊急的な河川内樹木伐採（国土強靱化3か年対策）を実施します。

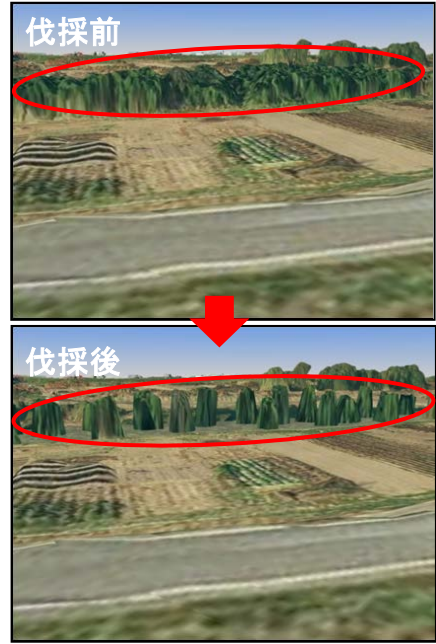
平成31～32年度事業の内容(平成30年度補正含む)

河川内樹木伐採 約200万m²（予定）

千曲川での実施事例

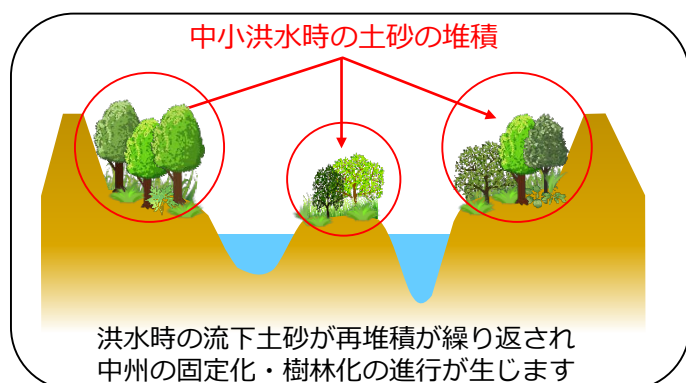
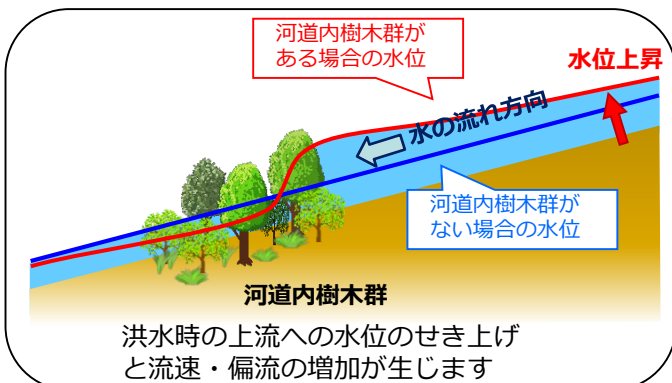
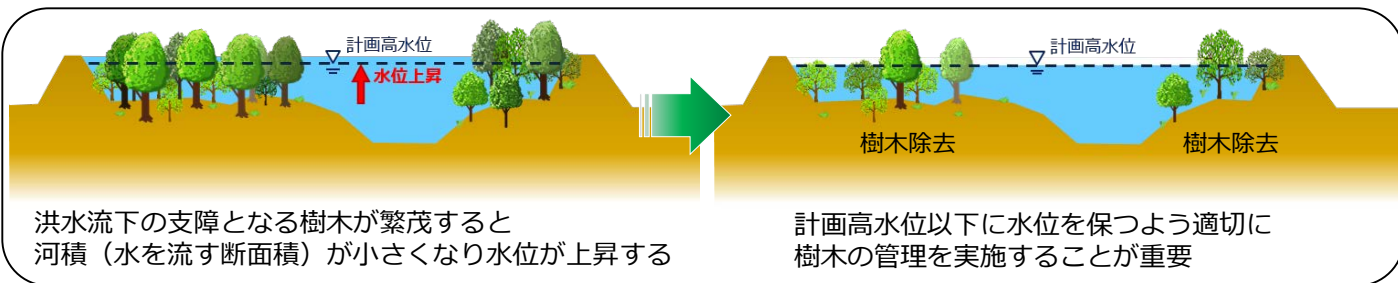


犀川での実施事例（3Dイメージ）



※現地の状況により、伐採量が異なる場合があります。

◆ 洪水流下時の影響



河道内樹木伐採・公募伐採

河川内に繁茂した樹木は、計画的に伐採を行っています。

また、従来から公募により自家消費する個人利用を対象に無償で支障木を伐採・持ち帰りをさせていただくことにより、伐採コストの縮減及び資源の有効活用を図る取り組みを行ってきました。平成28年度からは、より大規模な伐採を目指し、河川法第25条を適用して、営利を目的とする企業・団体等の方にも公募伐採を試行しています。

これらにより洪水時の流下能力向上、偏流による河岸侵食の防止、管理上の見通し確保、不法投棄の防止等を図ります。

公募伐採事例



効率的・効果的な維持管理

継続的な巡視や点検により、危険箇所や施設（堤防や護岸、水門・樋門・排水機場等）の損傷・劣化等の状態を的確に把握し、機能を維持できるよう補修や更新を行います。



堤防除草



河川巡視



樋門ゲート点検

河川協力団体

河川管理者と市民が協力・連携した河川管理の展開を図ります。環境調査・保全・管理等については、地域住民の要望を踏まえ、地域住民が河川管理に参加する仕組みづくりに努めます。

平成26年度より自発的に河川の維持、環境保全等に関する活動を行う団体に対する支援として「河川協力団体制度」を創設し、千曲川管内においては現在4団体が河川協力団体に指定され活動しています。

千曲川管内の河川協力団体（平成30年4月1日現在）

- ・上田水辺プラザ整備連絡協議会
- ・小森の千曲川に架かる石土手を後世に継ぐ会
- ・信州上田千曲川少年団
- ・薔薇人の会



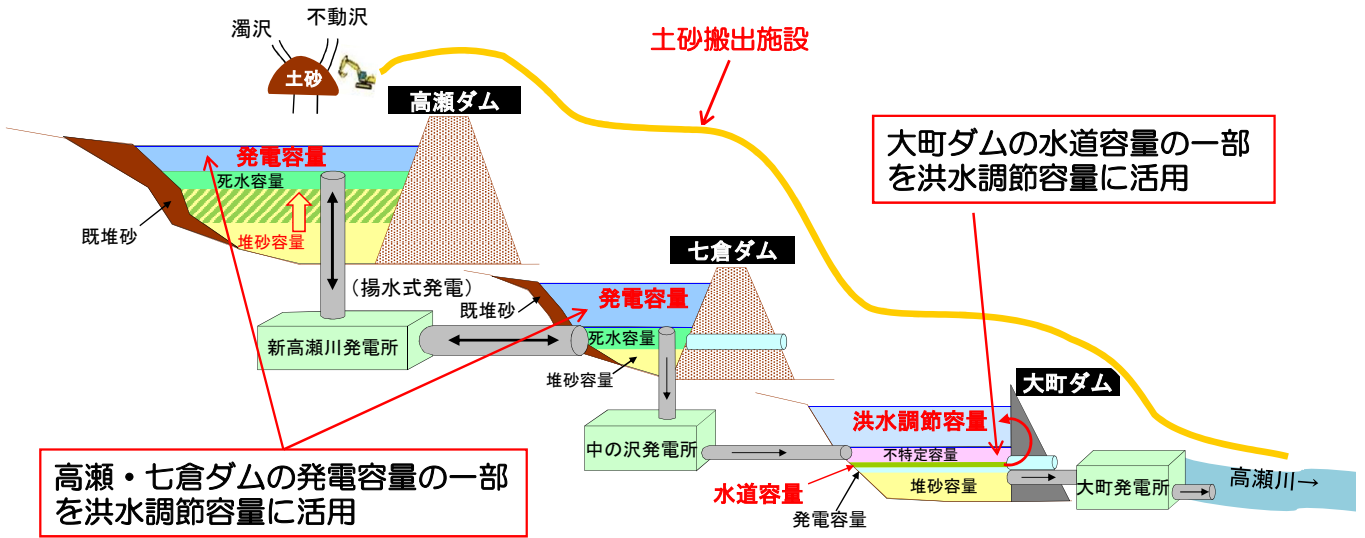
既設ダムの有効活用

大町ダム等再編事業の概要（実施計画調査）

平成27年度から実施計画調査に着手しており、大町ダム・高瀬ダム・七倉ダムを有効活用し、新たに洪水調節機能を確認するため、調査・検討を実施しています。

平成31年度は、共同事業者（予定）と協議・調整を図り、事業進捗に向けた調査・検討を実施します。

◆事業イメージ（実施計画調査 検討中）



大町ダム等再編事業により期待される効果

大町ダム等再編事業により、ダムの洪水調節機能が向上します。洪水時の河川水位を低下させることで、浸水被害の軽減等の効果が期待できます。

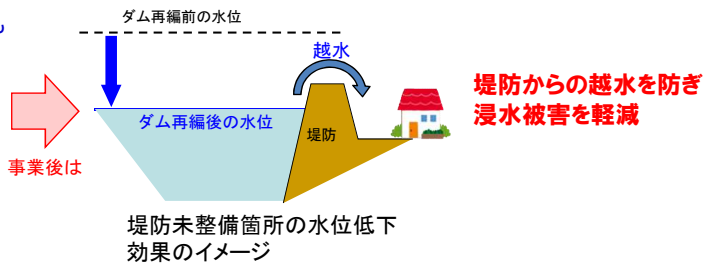
①浸水被害の軽減



平成18年7月洪水
生坂村小立野での水防対応
(土のう積み)

平成18年洪水では浸水発生への危機も

平成18年洪水では、水防活動やダム特例操作によって堤防からの越水を防ぎました。



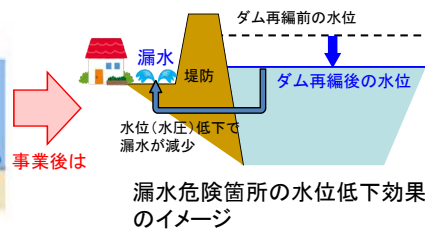
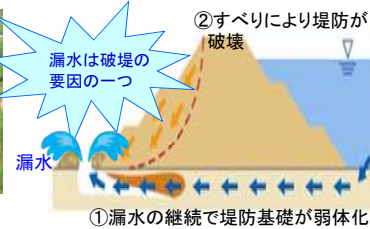
堤防からの越水を防ぎ
浸水被害を軽減

②破堤リスクの軽減



平成18年7月洪水
飯山市常盤での漏水対応
(月の輪工法)

平成18年洪水では漏水対応を実施



堤防漏水が減少し
破堤のリスクが軽減

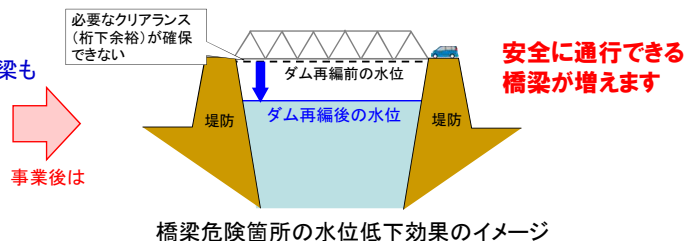
③避難路の確保(交通途絶の回避)



平成18年7月洪水時の
旧村山橋

平成18年洪水では通行止めとなる橋梁も

平成18年洪水では、河川水位が上昇したことで旧村山橋、上今井橋など管内で5つの橋梁が通行止めとなりました。



橋梁危険箇所の水位低下効果のイメージ

千曲川本来の砂礫河原の保全・再生に向けた取り組み

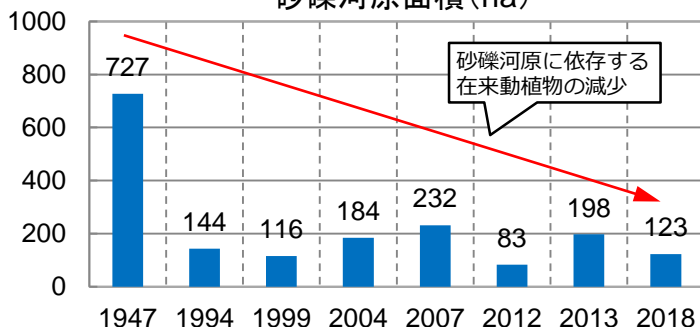
河川環境の現状と課題

かつての千曲川中流域の河川空間は、瀬・淵のある多様な流れの中に砂礫河原が広がり、砂礫河原に依存する生物の生息・生育空間となっていました。

しかし、河道内の砂利採取などの影響により河床低下が生じ、流路が固定化され、低水路と高水敷の比高差が拡大したことで高水敷の冠水頻度が減少しました。

これらにより、外来種であるハリエンジュやアレチウリが増加し、砂礫河原特有のコアシサシやコチドリ、イカルチドリなどの鳥類やカワラヨモギなどの植物が減少しています。

砂礫河原面積 (ha)



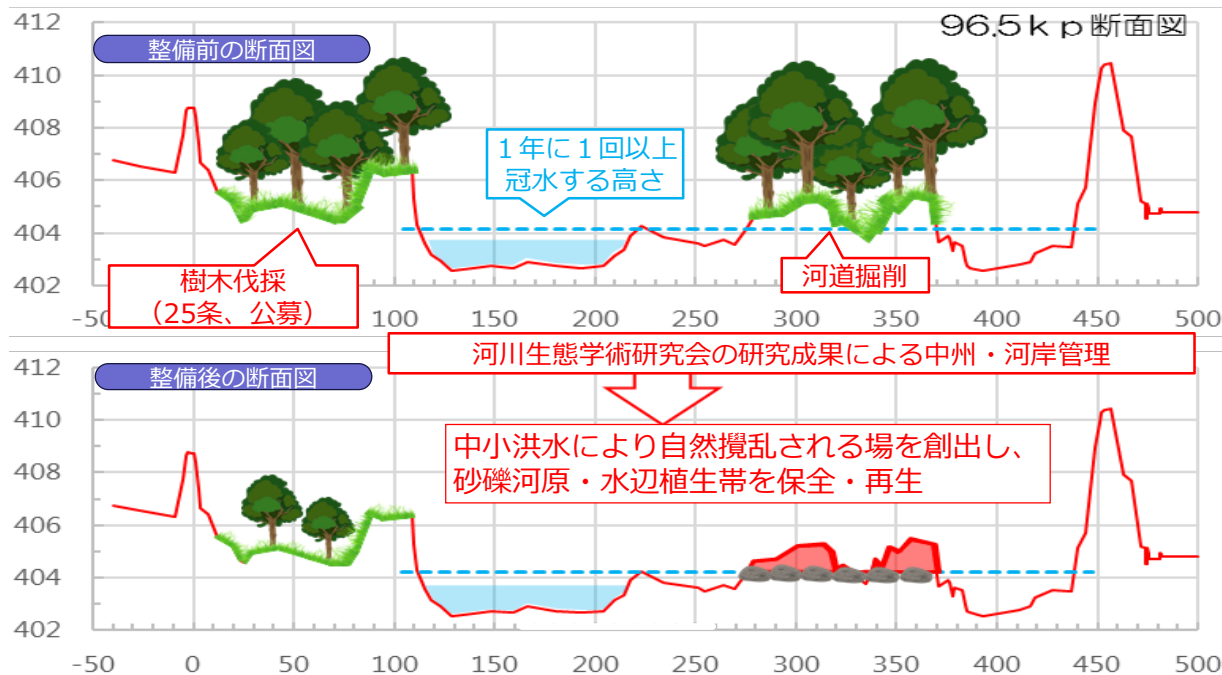
ハリエンジュ面積 (ha)



砂礫河原の保全・再生

千曲川らしい砂礫河原に再生するため、自然再生事業として高水敷を切り下げ、中小洪水による自然攪乱や冠水が起こることによって、砂礫河原の再生・保全や外来植物の侵入繁茂を抑制し、これまでに失われた千曲川本来の自然環境を再生する取り組みを進めています。

◆自然再生事業の整備イメージ



◆平和橋上流における自然再生事業



河川空間を活用した地域の賑わい創出

かわまちづくり支援制度

地域活性化のために景観・歴史・文化及び観光基盤などの地域が持つ「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、市町村、民間事業者や地元住民と河川管理者の連携の下、『河川空間』と『まち空間』が融合した良好な空間形成の創出を目指す、かわまちづくりを進めていきます。

【支援制度による支援】

〈ソフト面〉

民間事業者による河川敷のイベント広場やオープンカフェ等への利用制度(河川敷地占用許可準則第22条に基づく都市・地域再生等利用区域の指定)等を拡充、河川管理者として「地域づくりのためのフォローアップ」を積極的に支援

〈ハード面〉

まちづくりと一体となった水辺整備を積極的に支援

長野市 長沼桜づつみ



整備前

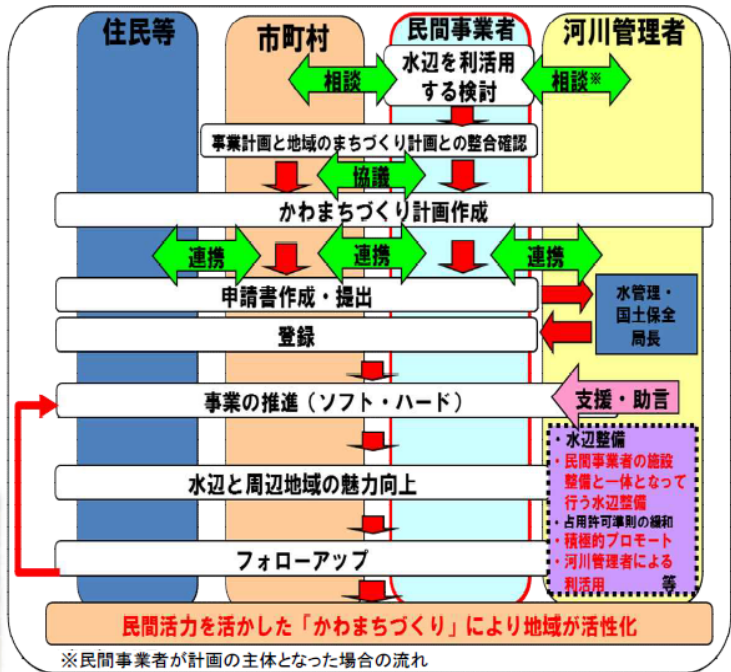


整備後

飯山市 湯滝橋カヌーポート



千曲市 水辺の楽校 自然観察広場

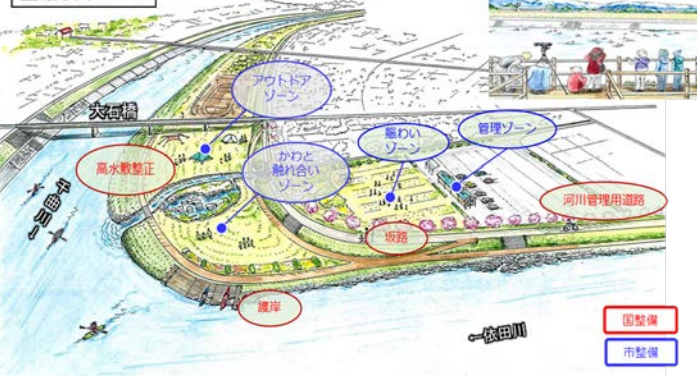


民間活力を活かした「かわまちづくり」により地域が活性化

※民間事業者が計画の主体となった場合の流れ

上田市千曲川×依田川地区かわまちづくり

整備後イメージ



自然観察エリアイメージ

上田市では、平成30年3月26日付けで「かわまちづくり」計画が登録されました。

本計画では、『かわを感じ！かわと触れ合い！まちが賑わう！千曲川×依田川地区』と掲げ、親水広場やカヤックポート、自然観察エリアなど、水辺と触れ合う空間を構築することを目的に、遊歩道やイベント広場、管理棟などを整備することで利活用の充実を図り、市民はもとより観光客にとっても魅力あるまちの拠点を創出し、地域の活性化を推進します。

○整備内容

- (国) 河川管理用道路、高水敷整正、護岸、坂路等
- (市) 自然観察エリア、親水広場、カヤックポート等管理棟、駐車場、遊歩道、桜並木、芝生広場等

千曲川北信5市町かわまちづくり

整備後イメージ



長野県北信地域の長野市、須坂市、中野市、飯山市、小布施町の5市町では、平成31年3月8日付けで「かわまちづくり」計画が登録されました。

◆広域連携による観光ルートの構築

5市町を繋ぐ千曲川を活用し、各市町の水辺拠点を整備するほか、現在行われている水辺アクティビティイベントの広域な連携、さらにアウトドアメーカーや鉄道事業者とのタイアップを推進します。

◆未来へ繋げる関係人口の創出

石碑や遺跡施設の周辺整備、未来を担う子ども達を対象とした水辺体験を通じた活動を充実させます。

○整備内容

- (国) 親水護岸、管理用通路、高水敷整正 等
- (市町) 遊歩道、サイクリングロード、石碑・遺跡施設の周辺整備 等

洪水等に備えた防災・減災の取り組み

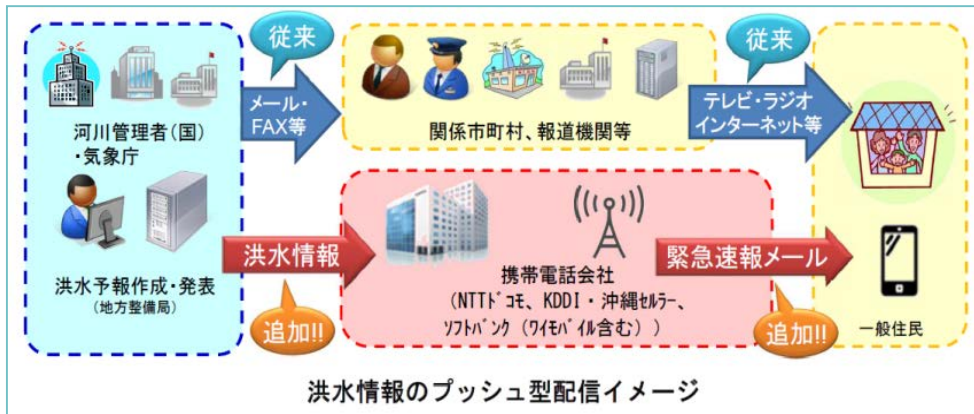
水防災意識社会再構築ビジョン

平成27年9月関東・東北豪雨により大規模な浸水被害が発生したことを踏まえ、堤防等では守り切れない大洪水は必ず発生するとの考えに立ち、社会全体で洪水に備えるため、国土交通省は「水防災意識社会再構築ビジョン」を策定しました。また、本ビジョンに沿って、千曲川及び犀川の沿川17市町村及び関係機関において「千曲川・犀川大規模氾濫に関する減災対策協議会」を設立、平成28年4月26日に取組み方針を策定し、ハード対策とソフト対策が一体になった水防災意識社会を再構築する取組みを行っています。

プッシュ型情報の発信

流域住民の主体的な避難を促進するため、平成29年5月から千曲川の流域自治体において、携帯電話事業者が提供する緊急速報メールを活用した洪水情報（避難を促進するための情報）のプッシュ型配信を開始しています。

※プッシュ型配信とは、受信者側が要求しなくても発信者側から情報が配信される仕組みのこと



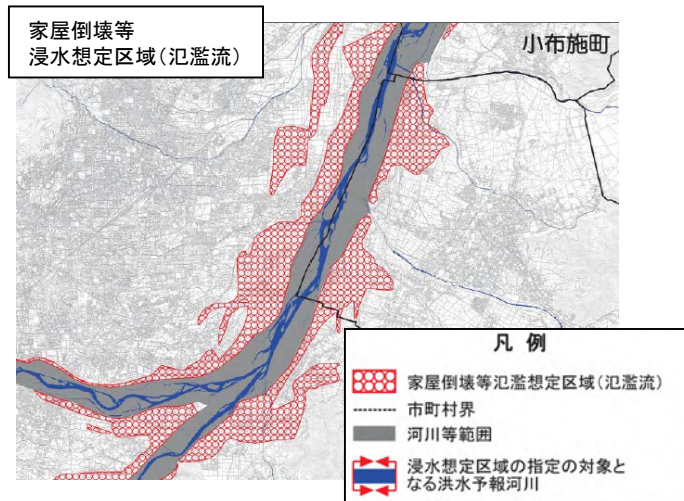
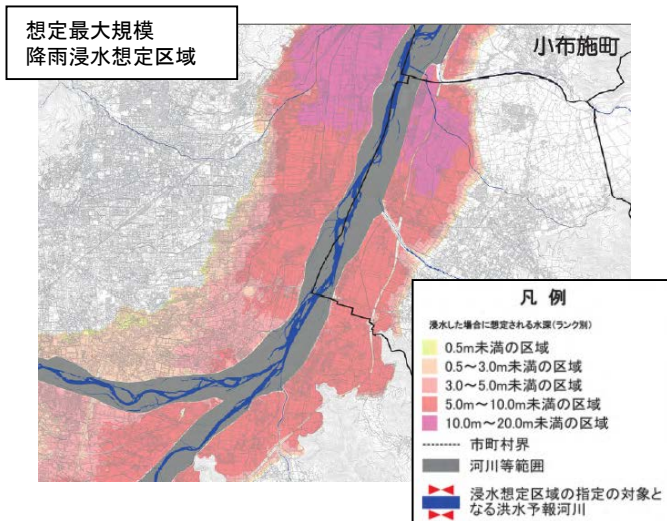
【配信対象市町村】

長野市、上田市、須坂市、中野市、飯山市、千曲市、坂城町、小布施町、木島平村

浸水想定区域図

近年全国各地で頻発している激甚な浸水被害への対応を図るため、想定最大規模降雨を対象とした浸水想定区域図等を公表しています。

想定しうる最大規模の洪水での浸水区域、浸水継続時間、家屋倒壊の恐れのある範囲など、ご自宅や職場、学校の「水害リスク」を知ることができます。



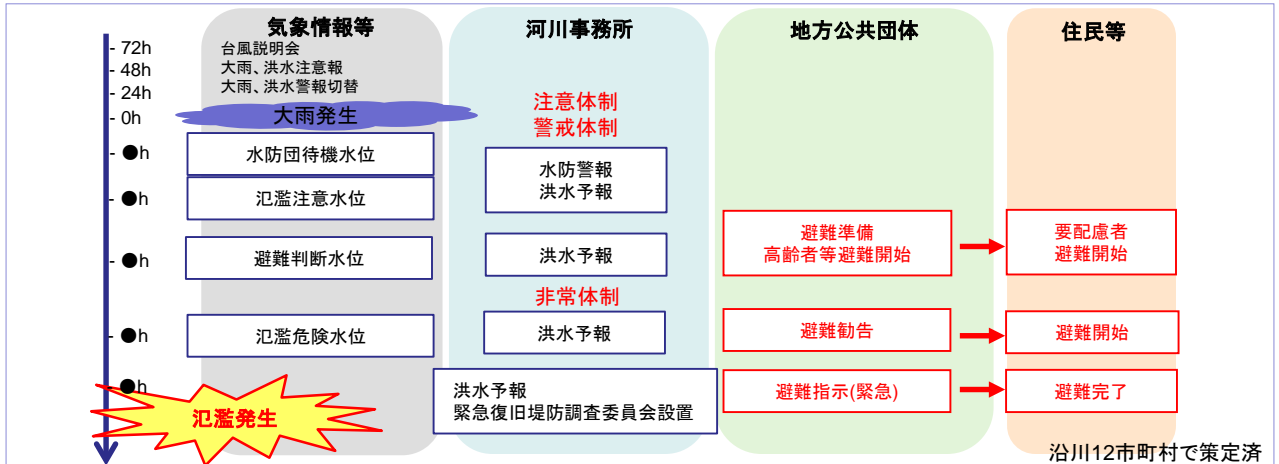
【浸水想定区域図】掲載ページ



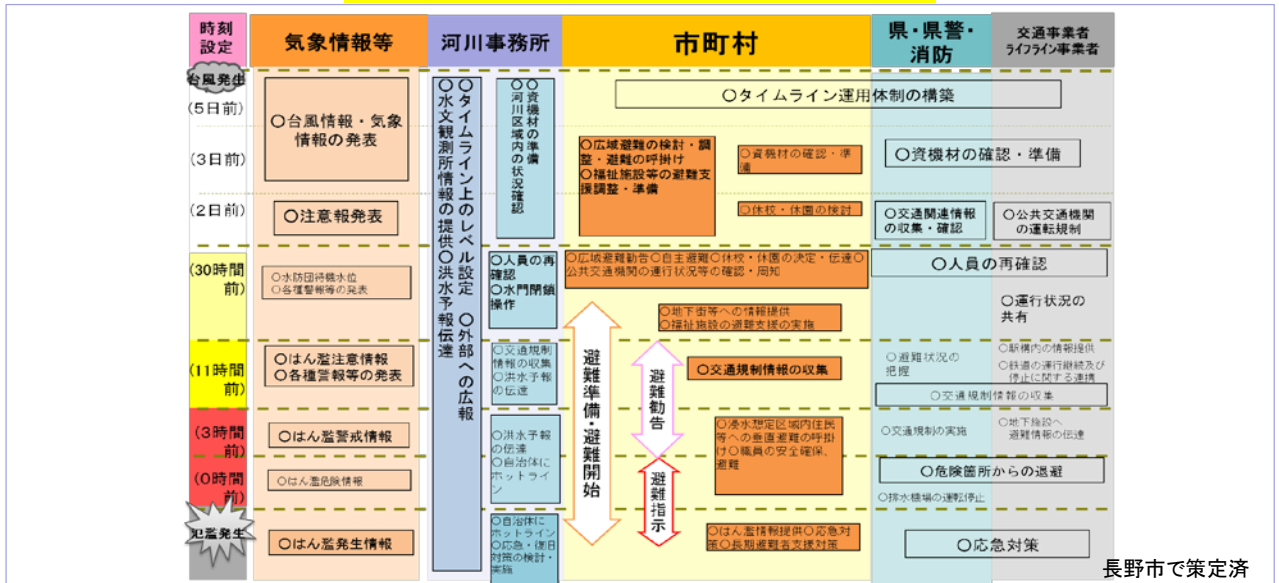
タイムライン

千曲川・犀川の氾濫に備えて、タイムラインの策定を進めています。タイムラインとは、「いつ」「誰が」「何をするのか」を時系列で整理し、一覧表にまとめたもので事前防災行動計画ともいいます。国、地方公共団体、企業、住民等が状況に合わせた対応を決めておくことで、災害時には連携した行動が可能となることを目的としています。タイムラインは、避難勧告等の発令に着目したタイムラインと多機関連携型タイムラインの2種類を策定しています。

避難勧告等の発令に着目したタイムライン(イメージ) 【Case:台風接近・上陸に伴う洪水】



多機関連携型タイムライン(イメージ)



危機管理型水位計の運用開始

「川の水位情報」サイトにおいて、通常水位計の情報(従前の千曲川3水位観測所、犀川3水位観測所等)や危機管理型水位計(H30年度に千曲川・犀川沿川に43箇所新設)の情報が、モバイル端末等で簡単に見られるようになりました。これまでより、身近な河川の状況を、簡単に・きめ細かく・リアルタイムで確認ができるようになります。自由にアクセスでき、皆さんのお住まい周辺の状況が確認できますので、是非活用して下さい。



確認できる水位データは以下のとおりです

観測開始水位: 危機管理型水位計が洪水観測を開始する水位です。10分間隔でデータが更新されます。(観測開始水位を越えると観測モードに切り替わります 平常水位は1日1回データ配信の自己診断モードの配信です)

危険水位: 水位計地点で氾濫の恐れが非常に高まった状態です。避難時間等も考慮して定められています。直ちに避難行動をおこなってください。

氾濫開始水位: 水位計地点では河川水位が堤防を越え、氾濫を開始した可能性があります。堤防から離れ、自身の安全確保をして下さい。

災害対策機器の配備

災害に備えて、対策機器等を配備しています。

- ・排水ポンプ車：水中ポンプと発電機を搭載した車両です。浸水被害の発生場所へ派遣し、緊急排水を実施します。
- ・照明車：災害現場で夜間の緊急復旧作業、危険箇所の監視等を行います。
- ・Ku-SAT II：災害現場の映像を衛星回線を使用して災害対策本部等に送ります。小型で人力運搬が可能です。

災害対策車両	中野出張所	長野出張所	戸倉出張所
排水ポンプ車 30m ³ /minモータ	3台	2台	1台
照明車 2kw 6灯	3台	1台	1台
照明車 LED 1.3kw 6灯	—	1台	—

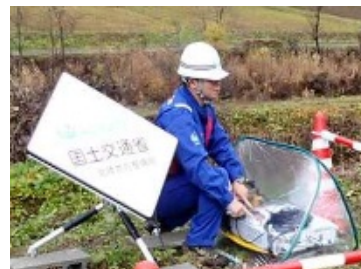
Ku-SAT II は事務所で1台配備しています。



平成29年10月台風21号出水
飯山市内の今井川樋管へ排水ポンプ車を派遣



照明車



Ku-SAT II
平成26年11月 神城断層地震土砂崩落監視

防災教育(出前講座)・現場見学会

現在、国土交通省では防災・河川環境教育に係る活動を強化しています。千曲川河川事務所でも、川に関する様々なことを知ってもらうために、出前講座(防災教育)・現場見学会などを実施しています。



【坂城町立南条小学校での出前講座】



【千曲川北八幡樋門改築工事現場見学会】



【長野市立芹田小学校での出前講座】



【小立野築堤工事現場見学会】

【講座メニュー】

- ・防災(過去の洪水、地震、火山災害、津波とその対策)
- ・環境(河川環境、外来種、河川の生き物、水質)
- ・河川の工事現場の見学会
- ・社会資本整備の役割や国土交通省の業務内容 など

問い合わせ先：026-227-9434(調査課)

千曲川の情報

千曲川河川事務所ホームページ



千曲川河川事務所

検索

クリック

<http://www.hrr.mlit.go.jp/chikuma/>



●ライブ映像(インターネット・携帯版・スマートフォン)



カメラ静止画(10分更新)



●XRAIN(高性能雨量ネットワーク)

局所的な雨量の細かい分布をリアルタイム配信しています。



事務所HP
このバナーをクリック

SNS

事務所の取り組みやお知らせなどを公式フェイスブックから発信しています。



川の防災情報・川の水位情報

身近な雨の状況、川の水位と危険性、川の予警報などをリアルタイムでお知らせするウェブサイトです

PC版



スマホ版



●レーダ雨雪量

全国や長野県内の雨雪量状況を早く知ることができます。



●水位・雨量情報

千曲川・犀川の水位、雨量の状況を知ることができます。



地上デジタル放送の情報提供



地上デジタル放送(NHK総合)dボタンを押すと、千曲川の水位雨量情報をご覧頂けます。

国土交通省 北陸地方整備局 千曲川河川事務所

〒380-0903

長野市鶴賀字峰村74



総務課(代表) TEL 026-227-7611
 経理課 TEL 026-227-7612
 用地課 TEL 026-227-7613
 工務課 TEL 026-227-7614
 品質確保課 TEL 026-227-7827
 調査課 TEL 026-227-9434
 管理課 TEL 026-227-9261
 占用調整課 TEL 026-227-7768
 防災情報課 TEL 026-227-7875

長野出張所

〒381-0026 長野市松岡2丁目1-26
TEL 026-221-4882

戸倉出張所

〒389-0804 千曲市大字戸倉字芝宮2222
TEL 026-275-0133

中野出張所

〒383-0042 中野市大字西条字吉原562
TEL 0269-22-2729

松本出張所

〒389-0851 松本市島内1666-1126
TEL 0263-47-2199